2023 年度支援展覧会選考結果

2023 年 11 月 25 日（土曜）、島敦彦（国立国際美術館館長）、中塚宏行（美術評論家）、保坂健二朗（滋賀県立美術館ディレクター）、岩城見一（京都大学名誉教授、元京都国立近代美術館館長、弊財団代表理事）、井面信行（近畿大学名誉教授、弊財団理事）を選考委員として、2023 年度支援展覧会選考委員会が開かれました。まず、委員の互選により、中塚宏行委員が委員長に選ばれ、次いで、A 部門に応募のあった1件と B 部門に応募のあった1件の展覧会について慎重に審議した結果、両方の展覧会に対して、支援を行うことを決定しました。なお、審査委員として、当初、原田平作（大阪大学名誉教授、弊財団代表理事）が予定されていましたが、死去にともない、岩城代表理事がつとめることになりました。また、中谷伸生（関西大学名誉教授、弊財団理事）は病気療養中のため、井面理事が代行することになりました。ご理解賜れば幸いです。また、応募件数が少なく、審査委員から、公募の仕方を再検討するよう求められたことを記しておきます。

選評

委員長　中塚宏行

応募件数は 2 件ときわめて少なかったが、いずれも、「視ること」のあり方に根源的な問いを投げかけるという点で、本財団の「視覚文化の振興」という活動コンセプトに合致するということで採択された。

A 部門（各地の美術館・博物館及びそれらに相当する施設又はギャラリーが企画する展覧会の部門）

■展覧会名：「アトリエみつしま企画展　まなざしのモメント」、会場：アトリエみつしま（京都）、会期：2024 年 9 月 29 日（日曜）～10 月 31 日（木曜）、企画：光島貴之、出品作家：ロビン・オウィングス、大谷重司、光島貴之、石原友明、かつふじたまこ
【支援金額】30 万円
【選評】全盲の美術家・光島貴之を中心に、晴眼・色弱など「視覚に特性のある画家」たちによる連続企画展の補助申請。第 4 回目は、まなざしと時間の関係をテーマとすることによって、「まなざし」の豊穣さが明らかになることが期待される。なお、会期をACK（Art Collaboration Kyoto/京都で開催されるアートフェアー）に合わせることができれば、その方がより大勢の人に見てもらえるのではないかという助言があったことを付記しておく。

B 部門（新進アーティスト／クリエーターが企画するギャラリー等での展覧会）

■展覧会名：「知覚する風景（仮）」展、会期：2024 年 11 月 6 日～12 月 1 日（予定）、会場：2kw ギャラリー（滋賀）、企画：谷内春子
【支援金額】20 万円

【選評】知覚や空間認識といった「見ることの構造」に関心のある日本画系の作家の個展補助申請。新しい日本画の可能性を「抽象」に求めようとする意欲が評価された。なお、記録カタログを作成するのであれば、展覧会内容の主張・解説や批評（ステートメント、テキストやクリティック）を掲載した冊子を作成するのがよいという助言があったことを付記しておく。